【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成25年7月25日(2013.7.25)

【公開番号】特開2012-20057(P2012-20057A)
【公開日】平成24年2月2日(2012.2.2)
【年通号数】公開・登録公報2012-005
【出願番号】特願2010-161901(P2010-161901)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　5/11　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/10　３１０Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成25年6月10日(2013.6.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１０６】
ステップＳ１１６およびステップＳ１１７の後、ステップＳ１１８で、制御部１１０は、変数iの値が6以上（i>=6）であるか否かを判断する。i<6（ステップＳ１１８でＮＯ）であれば、制御部１１０は、実行する処理をステップＳ１０２の処理に戻す。一方、i>=6（ステップＳ１１８でＹＥＳ）であれば、ステップＳ１１９で、制御部１１０は、平滑化大気圧$P_{ma}(i)$=ｍｅａｎ（Ｐｌ(N_{i-5}):Ｐｌ(N_{i-1})）を算出する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１０８】
図１４を参照して、ステップＳ１１８の後、ステップＳ１２１で、制御部１１０は、変数iの値が7以上（i>=7）であるか否かを判断する。i<7（ステップＳ１２１でＮＯ）であれば、ステップＳ１２６で、制御部１１０は、平滑化大気圧$P_{ma}(i)$の値を平滑化大気圧の一時格納変数D_{ma1}に格納して、実行する処理を図１３のステップＳ１０２の処理に戻す。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１０９】
一方、i>=7（ステップＳ１２１でＹＥＳ）であれば、ステップＳ１２２で、制御部１１０は、平滑化大気圧$P_{ma}(i)$の値を平滑化大気圧の一時格納変数D_{ma2}に格納する。そして、ステップＳ１２３で、制御部１１０は、判別対象のタイミングの１歩前の平滑化大気圧から判別対象のタイミングの平滑化大気圧への変化量$P_{diff}(i)=D_{ma2}-D_{ma1}$を算出する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０１１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１５】
次に、ステップＳ１４１で、制御部１１０は、変数iの値が11より大きい（i≧11）か否かを判断する。i<=11（ステップＳ１４１でＮＯ）であれば、ステップＳ１４２で、制御部１１０は、iが11（i==11）であるか否かを判断する。変数iの値が11でなければ（ステップＳ１４２でＮＯであれば）、制御部１１０は、実行する処理を図１３のステップＳ１０２に戻す。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２８】
$D_{adj}(j)$の値が、$D_{adj}(j-1)$の値に等しくない（ステップＳ１６２でＮＯ）と判断した場合、ステップＳ１６４で、制御部１１０は、$D_{adj}(j)$の値が、$D_{adj}(j-2)$の値に等しい（$D_{adj}(j)==D_{adj}(j-2)$）か否かを判断する。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３０】
$D_{adj}(j)$の値が、$D_{adj}(j-2)$の値に等しくない（ステップＳ１６４でＮＯ）と判断した場合、ステップＳ１６６で、制御部１１０は、$D_{adj}(j)$の値が、$D_{adj}(j-3)$の値に等しい（$D_{adj}(j)==D_{adj}(j-3)$）か否かを判断する。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３６】
閾値ごとの平地歩行の識別率は、平地歩行の識別率（％）＝（その閾値によって平地歩行と識別される平滑化大気圧の変化量P_{diff}のデータの数）／（実際に平地歩行であった平滑化大気圧の変化量P_{diff}のデータの数）の式で算出される。なお、その閾値によって平地歩行と識別される平滑化大気圧の変化量P_{diff}のデータとは、閾値の値をTh_nとすると、$-|Th_n| \leqq P_{diff} \leqq |Th_n|$を満たすデータである。平地歩行の識別率は、閾値$|Th_n|$を0.01から増加させていくと、単調増加し、0.1になったときには、100％近くに達する。